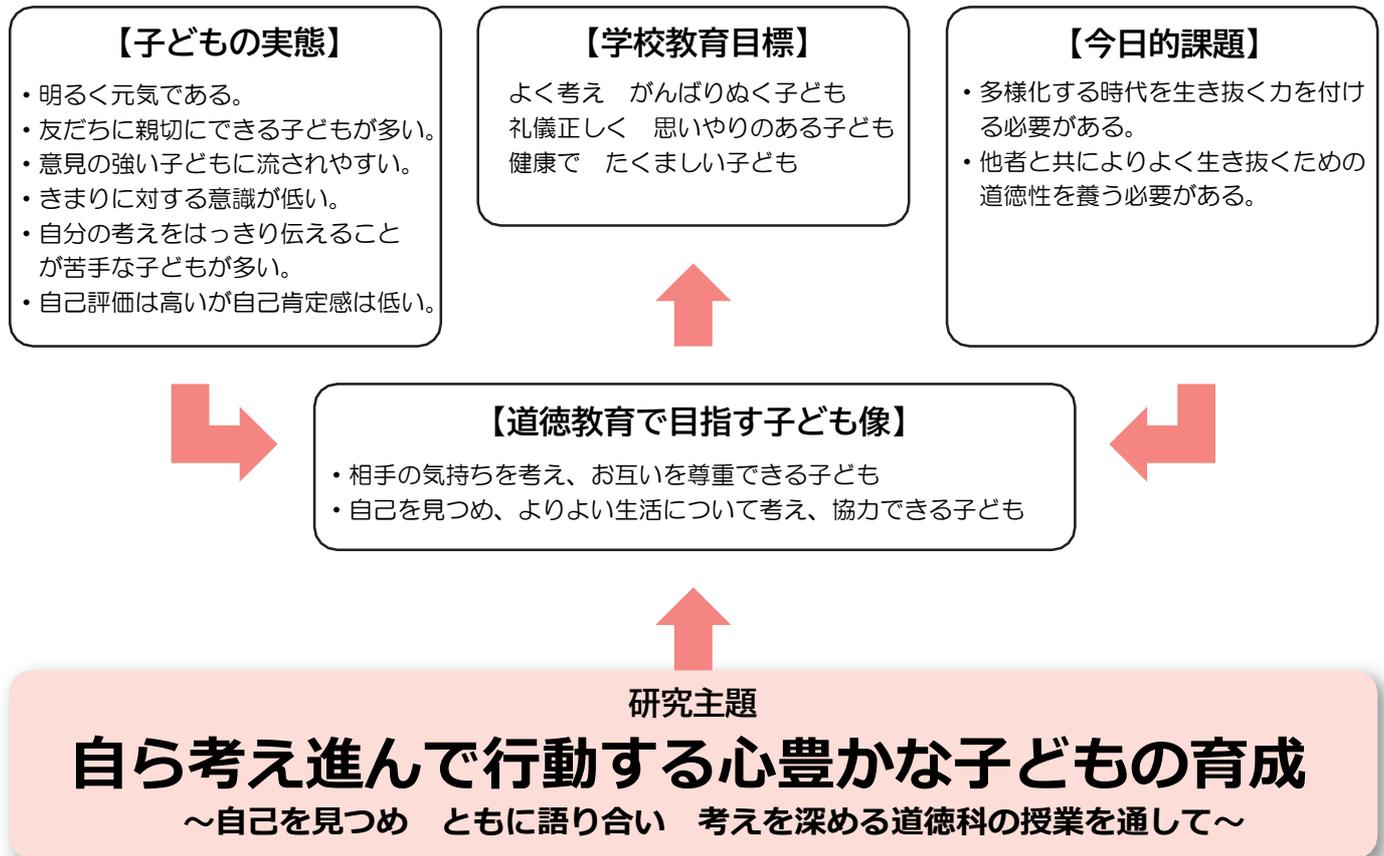


子供たち一人一人の豊かな心を育む 道徳教育の充実を目指して

子供たち一人一人に、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが、変化の激しい時代の中で特に求められています。本県においては、東日本大震災からの復興・発展を担い、岩手や社会全体をよりよい方向に変えていこうとする子供たちの、豊かな心を育む道徳科の授業が、一層求められています。

そのためにも、道徳科の授業改善に向けた各学校の着実な取組が必要です。本リーフレットは、令和3年度道徳教育研究指定校である奥州市立佐倉河小学校の貴重な研究実践を紹介しています。学校全体で推進する道徳教育の要となる道徳科の授業の充実に向けて、各学校の取組の参考として御活用ください。

◆奥州市立佐倉河小学校 研究の全体構想◆



| | | |
|--|---|---|
| <p>【本校重点項目】 B：主として人との関わりに関すること【友情・信頼 相互理解・寛容】 C：主として集団や社会との関わりに関すること【集団生活の充実】</p> | | |
| <p>自己を見つめ ともに語り合い 考えを深める道徳科の授業づくりの3つの手立て</p> | | |
| 自己を見つめるために | ともに語り合うために | 考えを深めるために |
| <p>【手立て1】 自我関与の工夫</p> | <p>【手立て2】 多面的・多角的に考える場の在り方</p> | <p>【手立て3】 今までの自分を振り返る工夫</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技 ・ワークシート ・ネームプレート ・心情スケール ・心のバロメーター ・動作化 ・発問の工夫 ・心情円 | <ul style="list-style-type: none"> ・板書の工夫 ・中断読み ・ペアトーク ・心情スケール ・ネームプレート ・ホワイトボード ・付箋の活用 ・発問の工夫 ・グループトーク ・心情円 ・意図的指名 ・役割演技 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー ・構造的な板書 ・学習のあしあと ・終末の工夫（写真や日記） ・アンケートの活用 |
| <p>道徳の授業を支える土台</p> | | |
| <p>①年間指導計画 ②重点項目を意識した別様 ③明確な指導観に基づく指導案の作成 ④子ども一人一人の成長を見守り、成長を認め励ます評価 ⑤安心できる学級経営 ⑥教室環境 ⑦学校全体で取り組むポジティブな行動支援（KSP「きらっと 佐小 プロジェクト」）</p> | | |

自己を見つめ

【手立て①】 自我関与の工夫

自我関与を
通して

- ・自分自身の現状を把握する。
- ・今までの経験や考え方・感じ方を想起し、道徳的価値の状況について外側から自分自身を見つめることができる。

【教材との出会いの工夫】 … 登場人物への自我関与を深め、教材の世界に入り込むことで、登場人物を身近に感じられる。

【役割演技】 …………… 役になりきることで、主人公に同化できることから、問題場面を自分事として考えることができる。

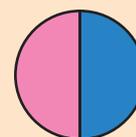
- 1 主題名 わがままな行い A「節度、節制」
- 2 教材名 「かぼちゃのつる」(1年 東京書籍)
- 3 ねらい 周りの人のことを考え、わがまますらないで生活しようとする態度を養う。

かぼちゃのつるが、勢いよく伸びていく様子を見ながら、周囲のことを考えずにいる問題場面に役割演技を位置付けた。かぼちゃのわがままな気持ちについて共感することができた。



【心情円】 …………… 心情円を用いて、登場人物の心の中の動きや揺れを視覚化し、その気持ちの度合いの理由を考えることを通して、自分の気持ちを整理できる効果がある。

- 1 主題名 励まし合う友だち B「友情 信頼」
- 2 教材名 「いいち にいっ、いいち にいっ」(3年 東京書籍)
- 3 ねらい 友達と互いに理解し、助け合っていくという態度を育てる。



T：本番を終えた主人公の気持ちを心情円で表しましょう。

C：(心情円を動かす)

C：どうしてピンクの色の部分が多くなったの。

C：本番で1位になれて嬉しいから。

C：あいちゃんが声を出してくれたから勝てたから。

C：アドバイスをもらって、二人で気持ちを合わせて勝てたから。頑張ってたから。



自分の考えを視覚的に表出することによって、自分の心を見つめやすくなり、その根拠も話しやすくなった。また、自分以外の友達の考えも具体的に知ることができた。

ともに語り合い

【手立て②】 多面的・多角的に考える場の在り方

多面的・多角的に考えることを通して

- ・子どもたちが将来出会うだろう様々な問題には、決して答えはひとつではないものがあることを知ることができる。
- ・様々な視点から物事を理解することで、多様な感じ方や考え方に触れ、他者と共によりよい道徳的判断の大切さを学ぶことができる。

【スケールの活用】 …………… 名札や付箋を用いて、自分はどんな理由でどのように判断したのかを見つめ直したり、自分とは違う選択をした友達の考えに耳を傾けたりしながら、友達の考えやその根拠を俯瞰的に見ながら自分の考えと比べることができる。

- 1 主題名 友情を深める B「友情、信頼」
- 2 教材名 「ばかじゃん」(6年 東京書籍)
- 3 ねらい 友だちとお互いに信頼し、相手の幸せを思い合うことで真の友情を築いていこうとする心情を育てる。



自分が捉えた主人公の「気分の重さ」の程度について、縦のスケールを用いて、名札マグネットで明らかにした。その根拠を全体で交流する際に、友達の考えと比べながら、自分の考えを深めることができ、多様な考え方に触れることができた。

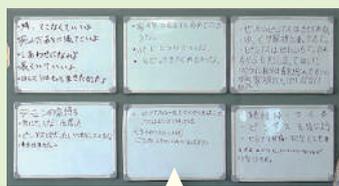
【話し合いの工夫】 …………… グループごとに話し合いでの考えを整理し、考えを言語化することにより、自分の考えを明確にすることができる。また、相手の話を聞いて、自分の考えと似ているところや違うところを見つけたり比べたりできる。

【構造的な板書】 …………… 視覚を通して、人の立場、空間、時間、条件等で様々な考えがあることを理解できる。

- 1 主題名 友情を深める B「友情、信頼」
- 2 教材名 「友の命」(5年 東京書籍)
- 3 ねらい 友達との関わりの中で、主人公が感じていた心情を考えることを通し、お互いに信頼し、学び合って真の友情を築いていこうとする態度を育てる。



全体交流で発言が苦手な子どもも、小集団での話し合いを取り入れると自分の考えを伝えやすくなった。



班ごとに考えをホワイトボードにまとめ、全体で意見交流を行い、友達の意見と自分の意見を比べやすくなった。



子どもの考えが板書に残ることで、子どもたちはより多面的・多角的な見方で考えを深めることができた。

考えを深める

【手立て③】 今までの自分を振り返る工夫

自分を振り返ることを通して

- ・価値の理解を自分との関わりで見つめることができる。
- ・これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方へのよりよいエネルギーにできる。

【終末の工夫】 …………… アンケート結果や作文、写真を通して、自分たちの生活と本時の価値を関連付けられるようにし、自己の生き方にも目を向けて考えることができる。

- 1 主題名 よりよい校風「よりよい学校生活、集団生活の充実」
- 2 教材名 「せんぱいの心を受けついで」（6年 東京書籍）
- 3 ねらい 最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着をもち、進んで立派な学校を作ろうとする態度を育てる。

- 4年生が6年生のすごさについて書いた日記を聞く。
C：うれしくなってくる。
C：やってよかった。
T：他にも6年生として頑張っていることはあるかな。
C：委員会活動、登校班、縦割り班活動、低学年のお世話
- 振り返りを書く。
C：任せられると嫌だったけど、進んでやろうと思った。
C：広美と同じで、はじめは嫌だったけど頑張ってたと思えることがたくさんある。
C：自分たちも伝統を作っていけるかもしれないと思った。



(6年生が活動している写真)

なかなか自分たちの生活と価値を関連して思い出すことができない場面で下級生が書いた作文や写真を用いたことは効果的であった。

【板書の工夫】 …………… 本時の価値に関わることを子どもに分かりやすい言葉で紙板書で残したり、赤チョークで示したりし、子どもたちの振り返りの観点や手掛かりとすることができる。

- 1 主題名 互いに理解し合って「相互理解 寛容」
- 2 教材名 「合言葉は、話せばわかる」（4年 東京書籍）
- 3 ねらい 相手と互いに理解し合って、自分と違う意見も大切にすることを育てる

本時の話し合いの視点やその内容を、構造的に板書で残すことにより、子どもたちが学習を通して考えたことや学んだことを視覚的に捉え直すことができ、自分との関わりで振り返ることに有効であった。



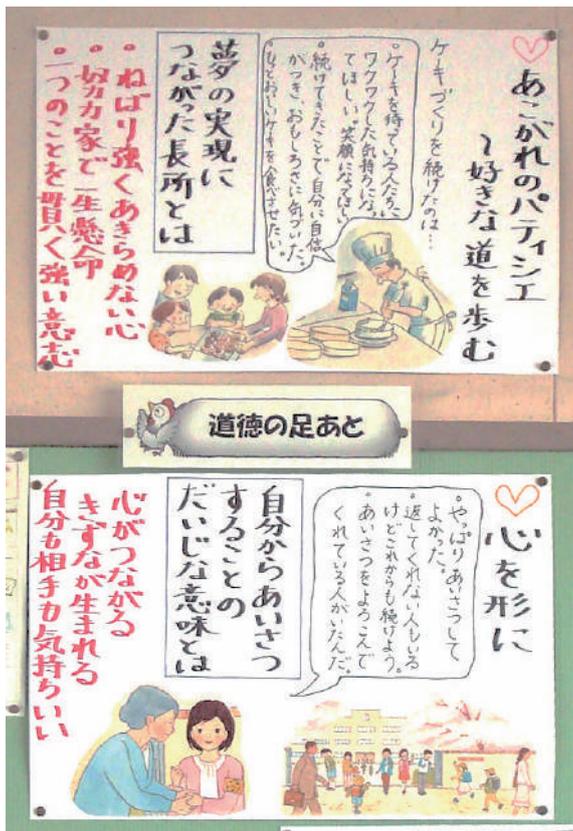
◆ 道徳教育を支える土台 ◆

(1) 重点項目を意識した別葉

重点テーマ 年間構想 6年 C(14) 勤労、公共の精神 (16)よりよい学校生活・集団生活の充実

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--|--|--|---------------------------------|---|--------------------------------------|--|---|----------------------|---|---|-------------------------------------|
| 学校行事 始業式・入学式 身体測定 交通安全教室 一斉下校指導 授業参観日 運動会 | 児童会総会 運動会 校地内清掃 | プール清掃 プール開き 体力テスト 授業参観日 宿泊学習 縦割り班清掃開始 | 幼小交流 1学期終業式 | 2学期始業式 身体測定 漢字の書き順 校内水泳記録会 | 地区教室 職業教育・講座 学年旅行 遠足 運動会 | 自然観察(4～6年) 水沢地域文化委員会 | 学習発表会 幼小交流 ワクワン運動 体育大会 | 2学期終業式 身体測定 | 3学期始業式 身体測定 | 児童会総会 授業参観日 6年生を送る会 | 3学期終業式 修了式 卒業式 |
| 各教科 国語 「つないでつないで一つのお話」 ・言葉には相手のつながあることに気づき、友達のを考えを受け入れながら話を | 体育 表現活動 友だちと協力して取り組んだり、助まらしたります。 | 図工 「私の場所」 お気に入りの場所を真つて、楽しく表 | 音楽 「ボイスアンサンブル」 友だちと音を重ねて奏 | 体育 自分の記録に向かい友達と競い合ったり、練習したりする。 ・低学年のスポーツテストの補助をする | 家庭 調理実習の手順をグループで話し合い 計画 | 国語 「みんなで楽しむために」 お互いの立場や意図を明確にしなが話し合い、考えをまとめた | 体育 ゴール型ゲーム ・グループで攻めや守りの動きを考え楽しくゲームを | 社会 平和で豊かな暮らしをめざして | 算数 「算数の学習をしようよ」 ・6年間の算数の学習を振り返るときに、自分の苦手なところを友達に聞いたり、教え | 家庭 「共に生きる地域での生活」 家庭生活は地域の人々のかわり成り成りしていることが分り、地域の人々との協力が | 音楽 「音楽で思いをつたえよう」 友達と話し合い理想を生か |
| 道徳科の時間 第1時(6月) 教材名「うらなネコの手ボランティア」(東書) ・働くことや社会に奉仕することの意義を | | | | | | | | | | | |
| 第2時(11月) 教材名「せんぱいの心を受け継いで」(東書) ・最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着をもち、進んで立派な学校を作ろうとする態度 | | | | | | | | | | | |
| 第3時(2月) 教材名「小さな連絡船ひまわり」(東書) ・身近な集団の中で、自分の役割を自覚し、協力して活動することの大切さ | | | | | | | | | | | |
| 総合的な学習の時間 6年生を送る会 ・学年や学団で協力して練習に取り組む。 | | | | | | | | | | | |
| 校内水泳記録会 ・学年や学団で協力して練習に取り組む、学団で励ましあ | | | | | | | | | | | |
| 学習発表会 ・友だちと協力して練習したり、道具の準備を | | | | | | | | | | | |
| マラソン集会 ・学年や学団で協力して練習に取り組む、互いに切磋琢磨 | | | | | | | | | | | |
| 学期末清掃 | | | | | | | | | | | |
| 6年生を送る会 ・お世話になった6年生へ感謝を伝えるために行うことができるのは何かを考える。 | | | | | | | | | | | |
| 重点項目を意識した項目 | | | | | | | | | | | |
| 学校全体で取り組むポジティブな行動との関連 | | | | | | | | | | | |
| KSP:あいつつ ・明るいあいつつをする。 | | | | | | | | | | | |
| KSP:やるべきこと ・廊下の右側を静かに歩く。 | | | | | | | | | | | |
| KSP:やるべきこと | | | | | | | | | | | |
| KSP:やるべきこと ・ハンカチを持ち歩き、手 | | | | | | | | | | | |
| KSP:やるべきこと ・廊下の右側を静かに歩 | | | | | | | | | | | |

(2) 教室掲示 (道徳の足跡)



◀2年生



4年生▶

◀6年生



(3) 学校全体で取り組むポジティブな行動支援 (KSP) (学校全体で推進する道徳教育の取組の一つ)

行動目標設定表の作成

指導方法を共有

学校全体で
システム化(共有)し、実行

成果を数値で示して
フィードバック(ほめる)

1. 行動目標設定表の作成

- ① 「3つの大切」を決定
- ② 「指導の場面」の決定と「指導可能」な目標に具体化

【佐倉河小学校の行動目標設定表】
きらっと(K) 佐小(S) プロジェクト(P)

| | きまりを守ろう | 自分も友だちも大切にしよう | すてきな言葉を使おう |
|------|---|---|--|
| 授業中 | <input type="checkbox"/> あいさつや返事をはっきり言おう。 <input type="checkbox"/> 授業に必要なものを準備しよう。 | <input type="checkbox"/> 友だちの話に反応しながら、最後まで聞こう。 | <input type="checkbox"/> 「です」「ます」をつけてはっきり話そう。 <input type="checkbox"/> 「いいね」「なるほど」「どうぞ」「ありがとう」の言葉を使おう。 |
| 休み時間 | <input type="checkbox"/> チャイムが鳴ったら遊びをやめよう。 <input type="checkbox"/> 廊下や階段は右側を静かに歩こう。 | <input type="checkbox"/> 友だちをさそって遊びに行こう。 | <input type="checkbox"/> 廊下ですれ違う人に「こんにちは」と言おう。 <input type="checkbox"/> 「遊ぼう」「大丈夫」「いいよ」「ごめんね」の言葉を使おう。 |
| そうじ | <input type="checkbox"/> 名札と赤白帽子をつけて掃除に行こう。 <input type="checkbox"/> 自分の掃除場所を1時30分まできれいにしよう。 | <input type="checkbox"/> 自分の分担が終わったら、終わっていない人を手伝おう。 <input type="checkbox"/> 「さん」をつけて名前を呼ぼう。 | <input type="checkbox"/> 反省会では、掃除を頑張った人を紹介しよう。 <input type="checkbox"/> 「おつかれさま」「手伝おうか」「がんばってね」「教えてちょうだい」の言葉を使おう。 |

2. 「3つの大切」を学校全体でシステム化(共有)し、実行

3. 成果を数値で示してフィードバック(ほめる・認める)

- ① 記録方法を決定し、指導を始める前に記録を行う。
- ② 具体的行動目標の記録を取って、評価を行う。
- ③ 具体的行動目標に取り組んだ成果を、フィードバックする。
具体的行動目標の成果をグラフ化し、子どもたちに自分たちの成長が目に見えて分かるようにする。

4. KSPの実際

「廊下や階段は右側を静かに歩こう」
6年生による全校への呼びかけ



「廊下や階段は右側を静かに歩こう」
6年生廊下歩行点検&ボーナスシール

「ありがとう やった〜!!」

子ども同士の認め合い



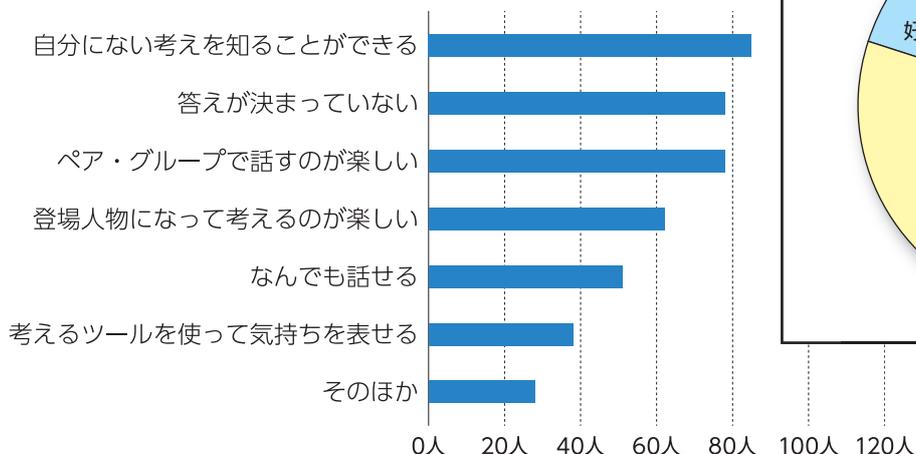
「廊下や階段は右側を静かに歩こう」



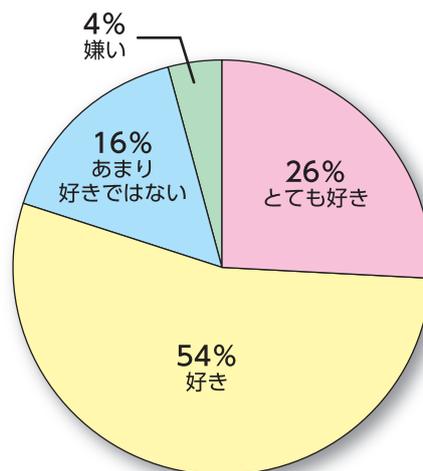
全校でシール
3436枚ゲット!

子どもアンケートから

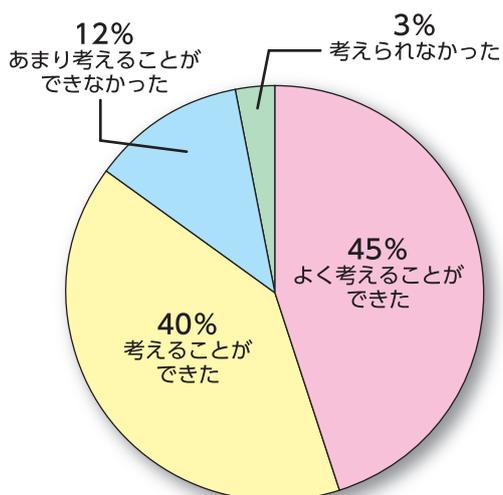
質問2：道徳が好きな理由（複数選択可）



質問1：あなたは道徳の授業が好きですか。



質問3：学んだことが、今までの自分の生活にもあったかどうか振り返ることができましたか。



《考察》

- アンケート質問1から、約80%の子どもが道徳の授業を好きだと思っていることが分かった。質問2の好きな理由を見ると、「ペアやグループで話すのが楽しいこと」や、「自分にはない考えを知ることができること」と答えた子どもが多く、これは研究の手立て2の「多面的・多角的に考えさせる場の在り方」の工夫として、ペアやグループでの伝え合いや話し合いの活動を多く取り入れた授業を積み重ねてきたことの成果として挙げられる。
- アンケート質問2の好きな理由として次に多かったのは、「登場人物になって考えたり、心情円や名前マグネットなどの思考ツールを使って気持ちを考えたりするのが楽しい」と答えた子どもで、手立て1の「自我関与のさせ方の工夫」により、自分事として考えることを通して、より自分の考えが深まっていくことよさを感じていることが分かった。
- アンケート質問3から、道徳の授業の中で学んだことが、自分のこれまでの生活でも同じようなことがなかったかと考えようとしている子どもが85%にも上ることが分かった。これは、手立て3の「自分を振り返らせる工夫」として、アンケートや学校生活の写真などを用いて、これまでの生活を想起し、道徳的価値と照らし合わせて振り返られるような展開後段の流れを意識して授業づくりを行ってきた成果と言える。

◆ 研究のまとめ ◆

手立て①【自我関与の工夫】

- 主人公に共感させる時、挿絵の表情は大変有効であった。
- 心情円の気持ちの度合いやスケールによる気持ちの数値化は、子どもたち自身が気持ちを可視化でき自我関与には効果的であった。
- 発問の仕方では登場人物への自我関与の度合いが微妙に違ってくるので、発問の吟味は大事であることを改めて感じた。
- 子どもから何を引き出していくのかという明確な教師のねらいが、繰り返し発問につながる。
- 子どもが語るためのきっかけづくりにつながるようなツールの活用であるという視点を忘れない。

手立て②【多面的・多角的に考える場の在り方】

- 主人公以外の登場人物の視点で心情を考えることは、自分を客観的に見たり考えたりして考えを深めることに有効であった。
- 子どもたちが考えの状況を捉えることができるように多面的・多角的な考えを構造的に板書に位置付けたことにより、子どもたちが板書を手掛かりとしながらいろいろな視点での考えを視覚的にとらえ、考えを深めることができた。
- ペア学習やグループ学習のような小集団での話し合いは全体での発言が苦手な子どもも考えを伝えやすくなるほか、子どもたちがお互いの考えを共有しながら学習を進めることに役立った。
- 子どもたち自らが思考ツールを使いこなすことにより、自分の考えと友だちの考えを比較したり分類したりしながら考えを深めていくことも必要である。

【成果と課題】

- 今次研究で3つの手立てを挙げて実践研究を行ってきたことにより、子どもたちが、自分の考えを話すことができたり、友達の考えに共感したりできるようになってきた。このような学びの積み重ねを通して、相手の気持ちを考えられるようになってきており、本校で目指す子ども像に迫ることができてきている。
- 自分と向き合ったり一生懸命考えたりすることは、子どもにとってとてもエネルギーを使うことだと感じる。しかしその行為こそ、子どもたちが自己を見つめる学びの経験となるものであり、大切であると学んだ。
- △授業づくりに関わっては、展開後段で自分の生活について振り返られるような授業を行うために、展開前段で価値理解を行い、道徳の時間以外の教科でも話し方のスキルや書くスキルを鍛えていく必要がある。

手立て③【自分を振り返る工夫】

- 板書とワークシートが関連するように用いると、本時の学習を振り返りやすくなった。
- 振り返りで導入のアンケートを再度取り上げ、自分の生活と関わらせながら考えた価値について、自分事として考えられた。
- 低学年の実践では、主人公にアドバイスを考えることも、登場人物に自分の日常を重ねて、自分を振り返ることにつながっている。
- 道徳の足跡の揭示は、日常生活の問題場面で、子どもたちが解決の際に学習したことを想起して、よりよい行動に生かそうとするなどの作用を生み出し、子どもたちのよりよい道徳的实践態度へ好影響を与えていた。
- 自分の生活を見つめ直し振り返る時間を確保するため、時間配分や発問の精選や場面の限定が必要である。

教師の意識【道徳授業づくりを通して】

- どんな発言も否定されない安心した学級風土が土台となって道徳授業が展開され、他教科の授業にもその姿勢が波及してきた。
- 教材分析図を作成することで、子どもの発言がどんな価値から来るのかわかるようになってきた。また、子どもに気付かせていきたいことがはっきりし、吟味された発問を通して子どもの思考が深まり多様な考えが出てくる手応えがつかめてきた。
- 目の前の子どもたちの姿をイメージしながら、教材を通して何を考えさせようか発問を考えることは楽しい。
- 発言から見えてくる子どもの新たな一面の発見もあり、新鮮である。
- 同じ教材でも視点を交える授業づくりを通して価値への迫り方が違ってくるおもしろさがある。
- 思考ツールありきではなく、どんなことを出させたいかによってどんなツールが有効であるか考えて授業づくりをする必要がある。
- 子どもの発言の受け止め方次第でその後の展開が変わってしまうこともあるので、価値分析は大切である。
- 評価についてはさらに研究する必要がある。